

～9人の議員が登壇し、活発な議論を展開～



町政を問う

一般質問

3月定例会

一般質問とは、議員が町政全般にわたり執行状況や将来に対する方針など、諸問題について質問を行い、政治姿勢を明らかにするものです。

議員	質問事項	ページ
井砂 善榮	耕作放棄地解消対策への考えを伺う	13
	放射性セシウム対策は今後も続けるのか	
	中核営農組織体の育成強化対策はどう進めるのか	
佐藤 定男	道の駅の雇用問題、宿泊設備の計画はどうなっているか	14
	くにみもたんキャラクターの商品化は	
松浦 和子	平成28年度の高齢者向けの新規事業の予定は	15
村上 一	「農業振興ビジョン計画」が必要と考えるが町の考えは	16
阿部 泰藏	土砂災害などのないまちづくりへの取り組みは	17
渡辺 勝弘	廃校利用した施設を今後どう運営していくのか	18
松浦 常雄	阿津賀志山防塁の観光客の受け入れ態勢は	19
浅野 富男	高齢化による地域活動のありかたは	20
村上 正勝	県北浄化センターの汚泥は2年間で全量搬出されるのか	21
	危険箇所の安全対策をどう考えているのか	

質問、答弁は要約して掲載しています。会議録全文は、町議会ホームページに掲載予定です。[<http://www.town.kunimi.fukushima.jp/groups/gikai/>]

国見町議会ホームページ → 会議録検索 → 会議録検索システム → 会議録検索システムへ

Q 耕作放棄地解消対策への 考えを伺う

A まずは「人・農地プラン」を策定し、
関係機関と連携して対策に努める

問 個々の農業経営で後継者や新規就農者不足が深刻化し、耕作放棄地の解消が難しくなっている。現在、町の耕作放棄地の面積はどのくらいか。

産業振興課 長

昨年8月から12月実

施の農地パトロールによる集計結果では、1年以上耕作されていない農地が町内合計で95・9ヘクタールである。また、2月18日の町農業委員会総会で非農用地と認定された農地が28・7ヘクタールなので、差し引き67・2ヘクタールである。

問 平地と山間部のそれぞれで解消対策を考えるべきだと思うが、町としての考えは。

町長

平地と山間部

問 消費者の信頼回復のために、今後も放射性セシウム抑制剤の散布は中長期的に続けていくのか。

産業振興課 長

米の安心安全の確保、風評被害などの関係から放射性セシウムの吸収抑制対策は有効な事業だが、将来にわたり中長期的に続けていくことは、公的機関の実証試験に基づいて県において制度化された吸収抑制対策という事業との整合性が図れない事態が生じ、困難であると考えている。

放射性セシウム対策は今後も続けるのか

機関と連携を図りながら耕作放棄地対策に努めていく。



米の安心安全のため行われている吸収抑制対策の様子

産業振興課 長

農業を取り巻く情勢がますます厳しくなる中、担い手の確保や農地の集積を進め、農業生産コストの低減を図るための集落営農組織の推進は必要不可欠な事業と認識している。

中核営農組織体の育成強化対策はどのよう進めるのか

問

中核営農組織体の育成強化対策について、既存の組織体と併せて新規組織体への対策をどう進めていくのか。

地域生産者の皆様の合意のもとでの組織化が必要となるので、話し合いの場の確保と情報提供を行い、組織化された段階で県やJAの専門的な立場からの助言のほか、様々な制度の中での補助事業などの対応をしていきたい。



井砂善榮議員

では、山間部から耕作放棄地の現況や対策も異なるが、町の姿勢としては山だから、平地だからではなく、一元的な形で特徴のある解消策をしっかりとやっていくことが非常に大切だと思っている。まずは「人・農地プラン」の策定が必要と考えており、農業委員や担い手、国・県をはじめとする関係